



【図1】平成22年登米市火災発生件数および損害額 (単位 区分：件 損害額：千円)

月別	区分	建物	山林	車両	その他	合計	火災損害額
1月		2		1	2	5	6,844
2月		2				2	4,708
3月		1		2	2	5	1,419
4月		3	1		2	6	7,184
5月				1		1	470
6月				1	3	4	119
7月		2	1	1	1	5	13,242
8月		1		2	1	4	133
9月		2	2		2	6	8,832
10月		1				1	6,476
11月		3	1	1	1	6	731
12月		1				1	24,420
平成22年		18	5	9	14	46	74,578
平成21年		26	1	6	17	50	46,462

資料「2011年 消防年報 とめ」

特集 火災から大切な命、財産を守る！そのために…

日ごろからの注意で 火災を防ごう！



住 命を守る火災警報器

住宅火災が多く発生している時間帯は、夕食の準備時間帯、住宅火災による死者が多く発生している時間帯は就寝時間帯です。住宅火災による死者の発生原因の約6割は「逃げ遅れ」によるもので、その半数以上は高齢者となっています。その中には、いち早く火災発生に気付いていれば、助かったケースもあったと考えられます。市では住

火災を早期に見命を守る火災警報器

ため、消火器の使い方や点検方法などの正しい知識を身に付けましょう。

「いざ」という時に効果的に消火器を使い、消火することがあります。

破裂して思わぬケガをしたりすることがあります。

また、誤った使用方法のため使用できなかつたり、サビや損傷などの異常により本体が破裂して思わぬケガをしたりすることがあります。

また、誤った使用方法のため使用できなかつたり、サビや損傷などの異常により本体が破裂して思わぬケガをしたりすることがあります。

また、誤った使用方法のため使用できなかつたり、サビや損傷などの異常により本体が破裂して思わぬケガをしたりすることがあります。

■設置場所 逃げ遅れ防止に効果を発揮します

寝室

就寝に使用する部屋の天井、または壁面に設置します(煙式が有効)。

台所

台所の天井、または壁面に設置します(熱式が有効)。

住宅火災警報器の設置を義務付けています。実際に、住宅用火災警報器のおかげで、大事に至らなかつたケースが多くあり、多くの命が救われています。

火災から大切な生命・財産を守るため、まだ設置をされていない人は、早急に住宅用火災警報器を設置しましょう。住宅用火災警報器について分からないことがある場合は、お近くの消防本部・消防署までお問い合わせください。

秋・全国火災予防運動

火災予防のポイント

【3つの習慣】

- ①寝たばこは絶対しない
- ②ストーブは、燃えやすいものから離して使用する
- ③ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す

【4つの対策】

- ①逃げ遅れを防止するため、住宅用火災警報器を設置する
- ②寝具やカーテンなどは、防炎品を使用する
- ③初期消火のために、住宅用消火器などを設置する
- ④高齢者や体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる

登米市の火災原因

1位は「野外での焼却」

市の火災件数は、年々減少してきて、平成22年中(1月1日から12月31日まで)に、発生した火災は46件。前年同期に比べて4件減少しています。

火災件数では、建物火災が8件減少の18件、その他火災が3件減少の14件、車両火災は3件増加の9件、林野火災は4件増加の5件と、全体的な発生件数は減少しています。

発生区分では、コンロなどの出火による「建物火災」や、枯れ草火災などの「その他火災」の発生割合が高い状況となっており、火災による損害額は7458万円(前年は4646万円)で1日約20万円が火災で失われたこととなります【図1】。

また、出火原因別では昨年に引き続き「たき火」や「コンロ」、「火入れ」、「放火(疑いを含む)」などが出火の主な原因となっています【図2】。その火災の多くは、日ごろからの

「ちょっとした不注意」が大きな被害につながる火災...。これからの季節は、暖房器具など火を取り扱う機会が増えることから、例年火災が多く発生しています。そのような火災が発生しやすい時季を迎え、11月9日から15日までの1週間、秋の全国火災予防運動が実施されます。平成23年度の全国統一防火標語は「消したはず決めつけないで、もう一度」です。かけがえのない生命や財産を火災から守るため、わたしたちができる取り組みなどについて改めて考えてみましょう。

火災が発生したら慌てずに初期消火

心掛けて防ぐことができます。

出火原因から見た左記の事項に注意して火災予防に努めましょう。

【たき火】屋外でのたき火などは、風の強い日避ける。

【コンロ】つけた火は、最後まで目を離さない。その場を離れる時は火を消してから。

【火入れ】水田などで、火を使う際は気象状況・周囲の状況に注意する。【放火】家の周りに燃えやすい物を置かない

火災が発生したら慌てずに初期消火

一火災が発生してしまっても、初期の段階で消火できれば火災が大きくなることを防ぐことができます。

火が小さいうちであれば、水や消火器を使って消火しましょう。初期消火のポイント「ゆっくり・慌てず・落ち着いて」行動することです。ただし、自分の身長の高さに達する